

知床

Shiretoko

知床半島は北海道の北東部に位置し、火山活動などによって形成された標高1,500m級の急峻な山々、切り立つ海岸断崖、湿原・湖沼群などにより構成されています。遺産地域はこの知床半島の中央部から先端の知床岬にかけての陸地と、その周辺の海を含む約71,100haの地域です。



羅臼湖

知床半島最大の湖沼。羅臼湖周辺はダケカンバ、トドマツの深い原生林の合間に、湿原や雪田が点在し、チングルマ、エゾザクラなどの高山植物が季節ごとに異なる表情を見せる。羅臼湖に至るトレッキングルートは、登山同様の装備と経験が必須。



羅臼ビジターセンター

羅臼側の玄関口として自然、文化、利用等に関する情報を展示・解説する。野生生物に関する調査や鳥獣保護区の拠点としても重要な役割を果たしている。1983年環境省設置、2007年移築・建替。



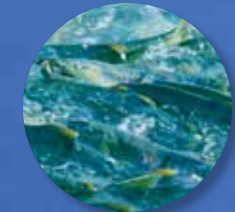
知床世界遺産サフィールドハウス

知床半島先端部の自然の素晴らしさ、知床の海と陸の生態系のつながり、人々の生活と密接に関わってきた知床の「海」の価値を伝える。ルール・マナーのレクチャーも行う。2009年環境省設置。



ホエールウォッチング

主にミンククジラ、ツチクジラ、マッコウクジラ、シャチ、イシイルカ、カマイルカ、ネスミイルカなどが確認される。ミンククジラは5～6月頃、マッコウクジラは8～9月頃が観察のピーク。



サケ

9月下旬～11月上旬にかけて、サケの大群が産卵のために川を遡上する。海と陸の生態系を繋ぐ特徴的な種。



トド

知床ではスケトウダラなどを食物資源にしている。知床半島沿岸海域に来遊するトドの多くはメスを中心とした100頭規模の群れで、ロシア周辺海域で交尾、妊娠した個体が出産のために栄養を蓄えにやって来る。

* 環境省版レッドリスト

絶滅危惧ⅠA類 (CR)

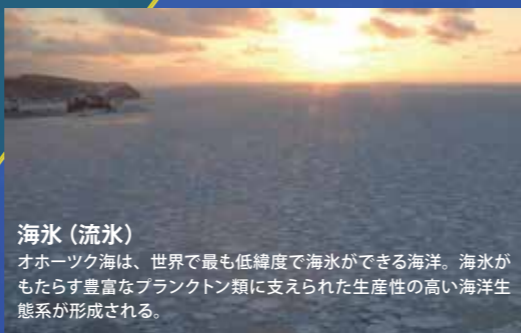
ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

絶滅の危険が増大している種

世界自然遺産の登録区域

- A 地区：厳正な保護管理を図る地域
- B 地区：自然環境の保全を基本として利用との両立を図る地域



海水(流氷)

オホーツク海は、世界で最も低緯度で海氷ができる海洋。海氷がもたらす豊富なプランクトン類に支えられた生産性の高い海洋生態系が形成される。

羅臼町

斜里町

知床世界遺産センター

タブレット端末によるバーチャル体験や、触れて学べる動物のぬいぐるみを展示し、知床の自然の魅力と利用のルール・マナーを伝える。リアルタイム情報や遺産地域の管理について最新の情報も提供している。2009年環境省設置。
*裏表紙参照



海食崖

知床半島では、火山活動と海食が組み合わさることで、断崖絶壁が作られた。特にウトロ側の海岸線は、最高200mの高さにもなる断崖が続き、さまざまな滝や奇岩が見られる。



フレベの滝

垂直に切り立った約100mの断崖の割れ目から地下水が流れ落ちる滝。地元では「乙女の涙」という愛称で親しまれている。



羅臼岳

知床半島にある火山群の主峰及び最高峰で標高1,661m。日本百名山のひとつ。



知床五湖

原生林に囲まれて五つの湖が点在しており、知床連山や原生林を湖面に映す美しい風景が見られる。知床五湖の開園期間はヒグマ活動期・植生保護期・自由利用期の3つに分けられている。地上歩道を歩く場合は時期により申請や講習の受講が必要となるが、クマよけの電気柵が設置された高架木道は、自由に散策できる。問い合わせ先：知床五湖フィールドハウス（電話：0152-24-3323、URL：<http://www.goko.go.jp/>）



硫黄山

羅臼岳とともに知床半島の活火山の一つで、高純度の溶解硫黄を大量に噴出する世界的にも特異な火山。標高1,562m。



カムイワッカ湯の滝

水が硫黄分を含むことからアイヌ語で「神(魔)の水」の意味を持つ。混雑時には、マイカー規制が実施されている。



オオワシ

ロシア極東部だけで繁殖する大型のワシで、全世界で5,000羽程度と推定されている希少な鳥。知床半島では、一冬に2,000羽以上が越冬した記録がある。
*絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



オジロワシ

ユーラシア北部に広く分布し、知床半島でも繁殖する。知床半島は豊富な食物資源を反映し、巣の分布密度の高さが世界で有数であり、一巣あたりの巣立ちヒナ数も多い。
*絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



シレットコスミレ

知床山系の固有種。シレットコスミレ群落は、硫黄山・東岳・知床別岳・南岳の火山荒原と遠音別岳・知西別岳間の鞍部の風衝荒原に見られる。



エゾシカ

ベトナムから極東アジアにかけて広く分布するニホンジカの1亜種。ニホンジカでは最も大きい。近年、個体数が増加しており、森林や草原の植物への食害をもたらししている。



ヒグマ

知床半島は、世界有数のヒグマの高密度生息地域。海岸や高山の草本、森の木の果、川にのぼるサケマスなど、森と海の恵みの両方を利用できるため、90種以上を食物資源にしている。



シマフクロウ

世界最大のフクロウ。種レベルで全世界に1,000羽程度しか生息していない希少な鳥。北海道全体で140羽程度生息し、世界自然遺産地域にはその4分の1程度が生息すると考えられる。
*絶滅危惧ⅠA類 (CR)



*注意
冬季は、知床横断道路が冬期全面通行止めとなるため注意が必要です。